

■ 道北地域連携シンポジウム「道北の農林水産物の輸出を考える」の開催について

留萌開発建設部 地域振興対策室

留萌、旭川、稚内の道北3開発建設部では「道北地域連携シンポジウム 道北の港から世界へ・道北の農林水産物の輸出を考える」を10月5日(月)留萌市中央公民館において開催しました。当日は道北各地域の経済、行政団体をはじめ、全道各地から約220名の方が参加されました。

このシンポジウムは、道北の農林水産物の輸出を拡大していくために、どのような課題と解決策があるのか、関係機関や関係業界がどのように連携していけばよいか、留萌港及び稚内港のさらなる活用を含めて意見を交わし、将来の発展性を展望することを目的としています。

はじめに、主催者を代表して留萌開発建設部の片倉部長から開会挨拶があり、続いて来賓の稲津久、渡辺孝一両衆議院議員からご挨拶をいただきました。

基調講演では、(一社)寒地港湾技術研究センター事務局長の川合紀章氏が「北海道の農産物の物流とその対応」と題して講演を行い、「北海道の農産物は秋に出荷が重なり輸送コストが割高になっている」など農産物の物流の現状と課題を指摘した上で、「雪氷冷熱の利用など産地保管による農産物流通システムは物流の効率化など多くのメリットがある」などの改善策が提案されました。また、道北地域における農産物のロット集約化の必要性を提案するなど、具体的な戦略等が提言されました。



基調講演 川合 紀章 氏

続いて事例発表が行われ、留萌振興局森林室森林整備課の渡辺主幹が「留萌港からのトドマツ材輸出」、JA道北なよろの太田販売部長が「JA道北なよろによる農産物の輸出」、(株)G.I.プランのグレーブ・ジュラフスキー社長が「ユジノサハリンスクにおける道北物産フェア」について、それぞれ発表を行いました。

休憩を挟んだ後のパネルディスカッションでは、基調講演を行った川合紀章氏をコーディネーターに、留萌市長の高橋定敏氏、旭川市長の西川将人氏、稚内市長の工藤広氏の3人がパネリストとなり、「今後の道北農林水産物の輸出促進に向けた戦略的取り組み」をテーマに討論が行われました。



3市長によるパネルディスカッション

3市長は、農林水産物の輸出拡大やサハリンとの経済交流などについて意見を交わし、道北3市の連携の必要性を改めて確認。工藤稚内市長は「サハリン航路は通年に近い形で取り組みたい」、「輸出拡大には高速交通ネットワークや港湾施設の充実も必要」、西川旭川市長は「ユジノサハリンスク市にアンテナショップを造るよう準備を進めている」、「旭川空港を活用した輸出拡大にも取り組んでいきたい」、高橋留萌市長は「留萌にはカズノコの加工技術があり、生鮮品だけではなく加工品の輸出にも取り組みたい」、「TPP締結後を見据え、留萌港における低温倉庫等の在り方についても検討していきたい」と述べられるなど、熱のこもった議論が展開され、盛況のうちにシンポジウムは終了しました。